


竹富町海洋教育実践記録シート

学校名		竹富町立白浜小学校	教科	総合
			関連教科	理科、生活科
対象学年 (人数)		1 学年 (2 人) 2 学年 (3 人) 3 学年 (3 人) 4 学年 (2 人) 5 学年 (2 人) 6 学年 (5 人)	時間数	5 時間
テーマ		ふるさと学習 ～白浜、西表の海を知ろう～ 春の遠足を通して、白浜近海の海を見よう		
内容	目的	豊かな西表の自然を実際に見ることで、そこに住む海洋生物の観察やマングローブの生態などについて学び、郷土愛を育てる。		
	進め方	春の遠足として実施。(※船浮小中学校と合同)		
	日時	4月26日(金) 8:00～14:30		
	場所	内離、外離、船浮湾、水落ちの滝、網取集落		
	行程	8:00	白浜港集合	
		8:20	白浜港出発 船浮へ向けて	
		8:20～10:30	船浮湾 遊覧	
			内離・外離遊覧及び海洋生物観察	
		10:30	網取到着	
		10:30～10:45	トイレ休憩・給水	
10:45～11:30		網取集落跡の見学・探検		
11:30～12:10		昼食・おやつタイム		
12:10～13:35		1年生を迎える会(交流レク)		
13:40～13:50		清掃・出発準備		
14:00	網取出発 白浜港へ向けて			
14:30	白浜港到着 現地解散			
準備物	帽子, 着替え, タオル, 弁当, 水筒, おやつ(300円以内), 敷物, 遠足のしおり ポケットティッシュ, ビニール袋, 簡易雨具(カッパ),			
外部連携	船浮海運 池田米三さん、崎山さん、 東海大学 水谷さん(白浜小PTA)			
活動の成果	子ども達はもちろん、職員も含め、白浜に住んでいながらなかなか見ることができない近海の海洋生物を見ることができた。また、マングローブがどのような役割をしているかななどをガイドの方から説明していただき、勉強することができた。特に、水落ちの滝や網取集落などは普段なかなか行けない場所なので参加できた事は大きな学びに繋がった。 子ども達の感想の中には、「網取集落にいるオカヤドカリのことが分かった。」 「白浜に住んでいるが初めて見た」などの感想があった。			





学校名	竹富町立白浜小学校	教科	総合
		関連教科	理科、家庭科、生活科
対象学年 (人数)	1 学年 (2 人) 2 学年 (3 人) 3 学年 (3 人) 4 学年 (2 人) 5 学年 (2 人) 6 学年 (5 人)	時間数	10 時間
テーマ	ふるさと学習 ～白浜、西表の海を知ろう～ 白浜小学校伝統行事 海の体験学習		
内容	目的	①地域の豊かな自然・文化に触れることで地域理解と郷土愛を深める。 ②自然・生き物への畏敬の念を育てる。 ③漁法的一端を体験することにより、海で働く人々の工夫や努力を理解させる。 ④魚介類について学ぶことにより、海への関心と理解を深めさせる。	
	進め方	海の体験学習として実施。(※船浮小中学校と合同) 当日～事後学習 【当日の活動】 ・刺し網体験 ・潮干狩り体験 ・魚調理活動 ・取れた魚の記録(写真) 【事後学習】 ・感想をまとめる。 ・〇感謝状作成 〇表現活動(絵・作文) など ・刺し網体験で取れた魚を使った調理実習(魚の天ぷら、かまぼこ、ホイル焼きなど)	
	日時	5月20日(日) 8:00～	
	場所	クマダラの浜 (船浮イダの浜の隣)	
	行程	時間	活動予定
	5/19 16:00 頃	刺し網漁の、網の積み込み作業の体験、見学(5年以上男子) ※児童引率は、校長先生が行う。	
	5/20 6:30～	刺し網の設置作業の体験(6年男子のみ)	
	7:50	新栈橋にて刺し網から、魚を外す作業の見学。(参加できる児童は参加する。)	
	8:15	学校にて出席確認・健康観察(検温等)	
	8:40	学校出発(ライフジャケット着用)	
	8:50	新栈橋にて安全上の諸注意(教務)	
	9:00	白浜出発	
	9:15	船浮港にて船浮児童及び職員乗船後 出発	
	9:30	クマダラの浜到着	
	9:40	海の体験 はじまりの会(白浜小校長あいさつ、講師紹介など)	
	9:50	昼食準備 ※前日に勲さんが獲ってくれた魚を使う 〇薪集め 〇火起こし 〇調理(魚をこしらえて味噌汁づくりなど) ※この間、担任外職員数名でトイレの確保を行う。	

		11:00	潮干狩り
		12:00	昼食・休憩
		13:00	刺し網漁体験
		13:45	取れた魚をさばく体験学習
		14:45	片付け
		15:00	終わりの会(船浮校校長あいさつ、児童感想など)
		15:10	帰り支度
		15:30	クマダラの浜出発
		15:45	船浮港にて船浮児童及び職員を降ろす
		16:00	白浜港到着 帰りの会 解散
	準備物	<p>・おにぎり（食べる分を自分で握る）・水筒・ぬれてもいい服装・着替え・ぬれてもいい靴（マリンシューズ等）・タオル・帽子・軍手・長袖、長ズボン、潮干狩りセット、他各自必要な物</p>	
	外部連携	<p>下地勲さん、秀太さん（白浜の漁師）</p>	
活動の成果	<p>今年度は、前日の刺し網の設置作業から当日の早朝に行く、網から魚を外す体験なども体験できた。例年、刺し網にかかった魚を外すだけの作業から、漁師が朝早くから設置作業をしていることなどの苦労や努力を体験できた。また、捕れた魚をその場で捌き、刺身や魚汁などにして食べる体験も、この体験でしかできない貴重な体験となった。職員や講師がいることで、安全面の確保もでき、1年生から6年生全員に魚を捌かせる体験をすることができ、また自分の手で捌いた魚を各家庭に持ち帰り、保護者と一緒に料理する体験は子ども達の学びに大きな影響を与えていた。</p> <p>子ども達の感想には「海の体験学習を通して、刺し網にかかる魚の種類が分かった」「魚を捌くには、技術が必要だと思った」などがあった。</p>		
			



学校名		竹富町立白浜小学校	教科	総合
			関連教科	
対象学年 (人数)		1 学年 (2 人) 2 学年 (3 人) 3 学年 (3 人) 4 学年 (2 人) 5 学年 (2 人) 6 学年 (5 人)	時間数	1 5 時間
テーマ		ふるさと学習 ～白浜、西表の海を知ろう～ 白浜地域の伝統行事 海神祭		
内容	目的	・白浜地域の伝統行事海神祭に参加することを通して、先人達の思いや地域の誇りを感じ、郷土愛を育てる		
	進め方	地域行事として、ハーリーへの見学や参加、祝賀会での踊りの披露などを行う。 ハーリー練習 (放課後) 踊りの練習 (6 時間程度)		
	日時	6 月 6 日 (木) 8 : 0 0 ~ 1 4 : 0 0		
	場所	白浜新棧橋		
	行程	8 : 1 5 出席確認・健康観察 8 : 3 0 学校出発 8 : 4 0 ~ 海神祭参加 9 : 0 0 開会式 御願ハーリー・学校対抗ハーリー (4 年生以上学校対抗競漕参加) 職域ハーリー (職員クラブ競漕参加) 婦人会対抗ハーリー・公民館対抗ハーリー 1 1 : 0 0 海上収穫祭 (小学生全員) ※ハブクラゲ発生時は見合わせる 1 1 : 3 0 会場にて着替え ※ブルーシートで隠して着替え 1 2 : 0 0 昼食 (児童分は公民館よりおにぎりセット有り) 1 2 : 0 0 祝賀会 (余興参加) 1 4 : 0 0 現地解散・職員は片付け手伝い		
準備物	・水筒・着替え一式・ぬれてもいい靴 (マリンシューズなど) 服 装 午前中の服装は「自由」 午後の服装は「体育着」 ※船漕ぎの際は、上は衣装 (赤サージ)、下は体育ズボン ※ライフジャケット着用			
外部連携	白浜地域公民館役員など			
活動の成果	白浜地域の誇りである海神祭は、子ども達にとっても参加する喜びを特に感じる事ができる行事であり、まさしく地域挙げての一大行事である。海神祭への参加を通して、海神祭の意義 (豊漁や家内安全) を知り、白浜の生活に海が非常に重要な役割を担っていることに改めて気づくことができた。また、その祭りに参加できる喜びを感じ、所属感や自然への畏敬の念を持つことができた。			



学校名		竹富町立白浜小学校	教科	総合
			関連教科	理科、社会科
対象学年 (人数)		3 学年 (3 人) 4 学年 (2 人) 5 学年 (2 人) 6 学年 (5 人)	時間数	1 5 時間
テーマ		ふるさと学習 ～白浜、西表の海を知ろう～ 社会見学「西表島の自然マングローブ生態系探検」		
内容	目的	<ul style="list-style-type: none"> ・西表島の自然（地形・気候・植物・生き物）について、実物を見たり触れたり話を聞いたりして理解を深める。 ・探検を通して感じたこと・考えたことを話し合い、まとめることができる ・豊かな西表島の自然環境を守り、継承するには何ができるか考えることができる。 		
	進め方	<p>①西表島の自然（地形・気候・マングローブ・周辺に住む生き物）の特徴について本や図鑑を使って調べる。</p> <p>②生態系探検（マングローブ、そこに住む生き物を観察する）カヌー体験、漂着ごみ問題の現状について話を聞く。</p> <p>③まとめ・ふりかえり・新聞作り</p> <p>④私たちができることについて考える。</p>		
	日時	9月27日（金）8：00～14：30		
	場所	西田川サンガラの滝		
	行程	<p>8：00 学校集合 健康観察</p> <p>8：15 学校出発</p> <p>8：40 海中道路着 西田川（サンガラ）マングローブ生態系探検（カヌー） 上原港周辺海岸 漂着ごみの実態観察</p> <p>16：00 白浜小学校 到着 解散</p>		
	準備物	<ul style="list-style-type: none"> ・長袖・長ズボン・帽子・ライフジャケット・マリンシューズ ・しおり・探検バインダー・弁当・水筒・おやつ・カップ・虫除けスプレー 		
外部連携	西表島エコツーリズム協会 森本孝房さん、錦織尚子さん			
活動の成果		<p>マングローブの生態系探検を通して、「マングローブは塩分の量によって種類が違ふことや、生き物の名前などを知ることができた。」「マングローブが光合成する力があることを知り、マングローブは地球温暖化の防止に役立つ自然であることが分かりました。」など、西表のマングローブの重要性が分かった児童の感想が目立った。</p> <p>また、漂着ごみ調べでは、漂着ごみの中で多い物を調べ、発砲スチロールやプラスチックが海を汚している原因になっていることや、そのごみを世界中の国や日本も捨てている現状があることを知ることができた。その中で私たちにできることは何かを考えたときに、「ポイ捨てをしないことやごみ拾いをすること、ビーチクリーンに参加する」などの意見があがった。</p>		
		 		



マングローブ林のゴミ

佐々木 瑠海
比嘉 優月
阿久津 彩柳

① ひょうちやくゴミのしょうたいはどんなもの?
答
 20%以上→発泡スチロール、プラスチック
 10~19%→PEL、PET、紙、プラスチック

② 水に浮くゴミ
答
 1位 発泡スチロール 2位 PEL、PET、紙、プラスチック

③ この国のゴミが一番多い?
答
 中国のゴミ、72.3%

④ 日本のゴミも世界に捨てている?
答
 2008年環境省が全国で調査した結果が多くの調査地では日本製の漂着ゴミが最も多いと判明した。絶対的多数はマングローブ林の繁殖地として有名なハワイ諸島の北西端ミッドウェー諸島の海岸は日本から漂着するゴミで溢れつづけている。

⑤ 私たちにできること
 ・ポイ捨てはしない
 ・オフショア作業に参加する
 今わたしができると思うことは、他の人がゴミを捨てている状況を見たり、ゴミを見たりしたら捨てると思います。そしてわたしもあまりゴミを出さないよう気を付けています。
彩柳

⑥ 今回の結果

品名	箱	袋	個
プラスチック	1箱	1袋	105個
発泡スチロール	1箱	1袋	105個
紙	1箱	1袋	105個
PET	1箱	1袋	105個
PEL	1箱	1袋	105個
その他	1箱	1袋	105個
合計	6箱	6袋	630個

私がおもて減らすためにできることはビニール袋に詰め、ゴミ袋に入れて持ち帰ることです。ゴミ袋を持っていない場合は、ゴミ袋を持って帰ります。ゴミ袋を持っていない場合は、ゴミ袋を持って帰ります。ゴミ袋を持っていない場合は、ゴミ袋を持って帰ります。

私に今までのこととしてゴミを減らすことは、今までの自然が壊れたとしても、ゴミを減らすことが大切です。ゴミを減らすことは、今までの自然が壊れたとしても、ゴミを減らすことが大切です。ゴミを減らすことは、今までの自然が壊れたとしても、ゴミを減らすことが大切です。

家庭から出るゴミは一般には生物として市の村が処理をし、事業活動で出るゴミは産業はいい物として排出した業者がきちんと処理を行うことが義務づけられています。

学校名		竹富町立白浜小学校	教科	総合
			関連教科	家庭科、生活科
対象学年 (人数)		1 学年 (2 人) 2 学年 (3 人) 3 学年 (3 人) 4 学年 (2 人) 5 学年 (2 人) 6 学年 (5 人)	時間数	8 時間
		テーマ		
内容	目的	<ul style="list-style-type: none"> ・白浜近海で取れた魚を使い、調理実習をすることで、生命への畏敬の念をはぐくみ、自然環境の大切さについて考える。 ・地元白浜の海人（漁師）へのインタビューを通して、苦労や努力、魚の取れ高などに環境変化の影響があるのかなどの、現状を知る。 		
	進め方	【事前学習】 魚の調理法にはどのようなものがあるか調べる 【事後学習】 インタビューで学んだことを新聞などにまとめる。		
	日時	11月6日（水）9：00～15：00		
	場所	白浜小学校		
	行程	9：00 調理実習に向けての安全指導 9：15 魚を使った調理実習スタート 魚の拵え方を学び実践する 10：30 ムニエルや魚汁、ホイル焼き、マース煮などを講師に習いながら調理する。 12：00 インタビュー活動 12：30 調理した魚を試食 14：00 振り返り		
	準備物	エプロンセット、マスクなど		
	外部連携	下地鮮魚店 下地勲さん、重子さん		
活動の成果		魚の種類によって、調理法を変えたり、どの料理に適しているのかなどを学んだり、美味しくいただくための工夫について考えることができた。また、魚の拵き方も魚の調理方法に合わせてうろこを取ったり、取らなかつたりすることもあったということを学ぶことができた。実際に漁師から教えて頂くことで、効率よく安全に拵く方法がそれぞれの魚にあることを実感することができた。また、インタビュー活動では、漁師から直接話を聞き、「なぜ漁師になったのか？」「漁師の楽しさは？」「ここ数年で環境変化によって漁獲量などは変わったのか？」などの生の声を聞くことができた。子ども達の感想には「人間が手を加えすぎた事で、自然界のバランスが崩れている事を知った」というものがあり、人間と自然との共生について考えている児童の姿も見られた。		
		